

## 令和7年12月教育長定例記者会見

期 日 令和7年12月24日（水）

時 間 15：50～16：21

出席記者 朝日新聞、広島テレビ、広島ホームテレビ、テレビ新広島、毎日新聞、NHK、  
中国新聞、読売新聞、RCC、山陽新聞、共同通信

### 《県立高等学校の再編整備について》

中国新聞： 中国新聞の野平です。県立高校の再編について伺います。都市部の高校で再編を検討されているかと思うのですが、一部、県議会等で既に説明をなさっていると思いますけれども、具体的にどのように高校を再編されていく予定なのかを教えてください。

教育長： はい。報道等がされておりますことは承知しておりますけれども、現段階におきましては、教育委員会の方で検討段階のものでございますので、その具体について申し上げる段階ではないというふうに捉えております。再編の考え方については、10月に県議会の文教委員会の方でも、その実施計画の在り方についての基本的な考え方をお示しさせていただいたところでございます。これから人口減少の中で生徒数の減少というのが見込まれている中におきまして、更には、これからの社会の変化に対応した様々なニーズに対応していくという必要性がございますので、それを見据えた形で、より魅力ある、特色ある学校づくり、教育環境づくりをしていきたいというふうに考えております。

中国新聞： 重ねてなんですけど、先ほど、「現段階では教育委員会として具体的に申し上げる段階ではない」という御回答だったんですが、一部で情報が既に出回っていて、当該の自治体、例えば、呉市とか尾道市の市長さんとかは大分困惑したような状態になっていらっしゃるかと思うんですけども、説明を今、まだされない理由をもう一度教えていただけますか。

教育長： 現段階で検討中のものであるということでありまして、加えまして、県立高校については、地域にある学校でもありますから、地域の自治体をはじめまして、関係者の皆様にしっかりと丁寧に説明をして、御意見を伺いながら中身を作っていくということがございますので、その途中の段階といえますか、当事者となる自治体や関係者の皆様に、しっかりとお話ができていない段階で、今どういうものが検討されているかということについて、つまびらかにするという段階ではないというふうに捉えております。

中国新聞： 実施計画の策定をめぐるスケジュール感のところを御説明いただけますか。

教育長： はい。これも確定的なことはなかなか申し上げにくいんですけども、実施計画自体がですね、上位の計画である第2期の基本計画、これを具体的に進めていくものとしての実施計画を検討しているところでございます。この基本計画自体が、既に令和7年度からスタートしている状況でございますので、その基本計画に基づいて、令和7年度も含めた10年の中で計画を進めていくこととなりますから、その具体的な実施をどうしていくかについては、できるだけ速やかに具体化していく必要があるというふうに思っておりますけれども、この間にですね、高校授業料の無償化ですとか、あるいは国の方でも高校改革を進める、いわゆるグランドデザインの議論もされておりますので、そういった状況も見ながら、更にはこれからの社会の変化、そして、地域の自治体の皆様と

しっかり丁寧に話をしながら進めていきたいと思っておりますので、今の段階ではなるべく早くとは思っておりますが、いつまでに、という確定的なところはなかなか申し上げづらいところがございます。

**中国新聞：** 確認なんですけど、10月の文教委員会で提出された資料では、来年1月に実施計画案を公表、1月にパブリックコメントの募集を開始、3月に実施計画確定とあるんですが、この予定に変更はありますか。

**教育長：** そのようなつもりではおりますが、先ほど申し上げたように、地元の皆様、関係の皆様と、しっかり丁寧な話をしていかなければなりませんので、そのスケジュール感ありきで進めるということは、一方通行になりかねない部分がありますので、そういった目安を持ちながら、しっかり丁寧にお話をしていきたいというふうに思っております。

**中国新聞：** 予定では、1月に実施計画案を公表される際に、今出回っているような対象校が発表される予定だと思うんですが、その発表後に地元で丁寧な説明をされていく予定なんですか。

**教育長：** 地元への御説明については、全てをこの場で申し上げるとするのはなかなか難しい部分があるかと思えますけれども、アプローチできる場所については並行して、今もお話しさせていただいている部分がございますので、そこは並行して進めさせていただきたいというふうに思っております。

**中国新聞：** 分かりました。関連してなんですけど、この実施計画とは別に、基本計画の中に、中山間地域の小規模校についての在り方も明記されていると思いますが、その中でですね、先日の記者会見でも確認して改めて伺うんですけれども、2年連続で新入生が20人未満か、全校生徒が60人未満となった場合にですね、統廃合を含め三つの選択肢が明記されていると思うんですが、これは、今回は実施計画をまとめている最中ですが、基本計画は基本計画として存在して適用されるものという認識で良いでしょうか。

**教育長：** そのとおりです。

**中国新聞：** 分かりました。「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」の基本的な考え方(案)の中にはですね、当該の1学年4から8学級に満たない学校については、具体的に統廃合を実施するというふうに明記がされているんですけれども、基本計画の方ではその表現が特にはないんですが、要するに、統廃合の検討対象になるというだけで、実施するかどうかははっきり決まっていないという、そういう認識でいいんでしょうか。

**教育長：** 基本計画の中でも、都市部と中山間地域において、望ましい学級規模については明記しておりますので、その考え方に従って、これからの社会の変化、それから人口減少を踏まえて、どのように学校の在り方を考えていくのかというところにある段階です。

**中国新聞：** 基本計画には、1学年20人未満又は全校生徒60人未満が2年連続で続いた場合に統廃合という旨の記載がされているんですけれども、そうなった時点で、統廃合を中山間地域の学校は実施するという認識でいいんでしょうか。

**教育長：** 基本計画のとおりですので、再編整備の検討対象になるということになります。それをいつ実施するのかとか、どう行うのかということについては、それぞれの状況に応じた具体論というものがあると思うんですけれども、直ちに今、決まっているわけではありませんので、その先のことについては申し上げづらいところがあります。

**中国新聞：** 実施する時期は不明ですが、そうなった時点で決定ということにはなるんですか。

教育長： 検討対象になるということです。

中国新聞： 検討対象になるということは、検討対象となるだけであって、実施するかどうかは正式に決まったわけではないという（理解でいいですか）。

教育長： どのように実施するかということについて、検討対象に仮になった場合、その時点で考える必要があるというふうに思っております。

中国新聞： どのように実施するかというのは、近隣の県立高校のキャンパス化、特定の中学校と緊密な連携による一体的な学校運営を行う「中高学園構想」への移行、統廃合と三つあるんですけども、その三つのどれにするかを検討するという事なんですか。

教育長： どれにするか、どのようにするのかは、現に通っている生徒もいますので、それをいつ実施することになるのか、その具体の在り方を含めて検討することになります。

中国新聞： 分かりました。何が言いたかったかといいますと、一部県議の方とか首長の方にはですね、今回の都市部の高校の具体的な在り方をどうしていくかということと、基本計画で定められている、中山間地域の学校をどうしていくかという部分の認識が混同されている方が中にはいらっしゃるようだなと思ったので、それでお尋ねしました。実際届いていないですかね。混同してよく分からない、例えば、中山間地域は今回で対象にならなくなったのかというような問い合わせは県教委で受けてないですか。

教育長： 我々としては何か具体の発表をしているわけではありませんので、そういった懸念の声を一部いただくことがないわけではないですけども、しっかりその誤解がないように、実際に素案を示させていただき段階ではしっかり説明したいと思います。

中国新聞： 私が言いたかったのは、10月に県議会文教委員会の方で配られた、基本的な考え方（案）の5ページに「中山間地域」という項目が設けられていて、「中山間地域においては、高等学校教育の機会均等の確保の観点から、当実施計画における統合の対象とはしない。（『基本計画』の学校再編基準に従う）」という表現をされているところがあったので、それを見て、一部の県議の方とか関係者の方は、「統合の対象はしない」というところだけをとって、「基本計画で定められたものは対象外となるのか。」という認識を持たれた方がいらっしゃったそうです。

教育長： そうですか、それはちょっと知りませんでした。

中国新聞： そうですか。すみませんでした。ありがとうございました。

朝日新聞： 朝日新聞の武田です。高校の再編のことで追加で確認なんですけれども、文教委員会で10月に明らかにされたものでは、1月に実施計画を公表し、それ以降にパブリックコメントを募るということだったんですけども、地元への説明というのは、計画公表の前に地元の説明を終えるという理解で良いですか。

教育長： そこについてはですね、いろいろな段階があると思っています。今、正に素案づくりをしておりますので、報道等で御心配をおかけしているところもございまして、並行して進めていく部分とですね、ある程度の一定の考え方をまとめた上で、そして素案から実際の計画策定といったところに至るまでに協議をさせていただき、説明をさせていただきという部分もあると思います。ですので、それぞれの状況に応じて並行して、しっかり丁寧な説明を行っていきたいというふうに思っています。

朝日新聞： 重なる部分もあるという（理解でよろしいですか）。

教育長： はい。

朝日新聞： それで、3月に計画決定というスケジュールだったんですけれども、ここも変わるかもしれないという理解でよろしいでしょうか。

教育長： 我々としてはそのつもりで、10月に県議会の文教委員会にて説明をさせていただいております。そのスケジュール感を持ってですね、臨んでいきたいというふうに思っておりますけれども、しっかりと地元の関係の皆様と丁寧なお話をして、そして、これからの将来の教育の在り方そのものに関わる内容でございますので、丁寧なお話をさせていただく中で、一定の時期に結論を決めているからそこで話を打ち切るとかというようなことは、なかなか難しいのかなというふうに思っております。とはいえですね、これをずるずるとやるようなものでもないと思っておりますので、一定のめどというか目安を持って、スケジュール感を持って臨ませていただきまして、しっかりと丁寧な説明を行っていきたいというふうに思います。

朝日新聞： 3月に間に合わなかったときに、何か支障があるものなのでしょうか。

教育長： 具体の支障といったところがあるかというところ、なかなか難しいところがあると思います。先ほど、最初の方の御質問にお答えしましたけれども、もともと既に上位の計画がスタートしている中で、具体的にどうするのかといったところがまだ定まっていないという状況でございますので、それ自体が少し異例のことなのかなというところがありますから、しっかりと考え方を共有した上で、具体的な計画についてもなるべく早く詰めてですね、具体的に少しずつでも準備して、動き出せるようにしていきたいというふうに思っております。

中国新聞： すみません、1点だけ追加で。基本計画が上位の計画で、実施計画が下位の具体的な計画に当たるとするんですが、基本計画の中で、中山間地域の学校をどうするかというものを具体的に明記をされていて、実施計画の中で中山間地域の学校をどうするかということが、10月に示された基本的な考え方（案）の中には入っていないんですけれども、実際にまとめられる実施計画の中には、そこは盛り込んでいかれる考えなんですか。それとも、もう基本計画で定めているから実施計画では具体的に中山間地域をどうするかということ盛り込む考えはないんですか。

教育長： はい。基本的な考え方に沿ってですね、まとめたいというふうに思っておりますけれども、その具体のところについて、今の段階で申し上げられるものは、申し訳ないですけれどもないということです。

中国新聞： 様々な事業計画において、基本計画をもとに実施計画で具体的な内容を作るという、そういう流れで作られていくと思うんですけれども、そういう意味で言えば、中山間地域のものが入っていないのは大分違和感を感じるんですが。

教育長： これから作っていく中において、今は入れないとも入れるとも言っていないので、検討していく内容だと思っております。

中国新聞： 分かりました。

#### 《令和6年度の広島県における生徒指導上の諸課題及び不登校等の現状について》

N H K： NHKの小林です。大変申し訳ないんですけれども、先月の会見で出た質問と同じ質問をさせていただこうと思ひまして、不登校についての質問についてさせていただければと思うんですけれども、広島県に関しては、大きく増えている減っているというより、

ある意味、高止まりしている状況にあるのかなと思うんですが、そうした、不登校の児童生徒が多くいるという現状についての受け止めと、改めて今後どのような対策をしていきたいか、そこを改めてお願いします。

**教育長：** 不登校について、先々月の調査でもですね、児童生徒の問題行動や不登校の調査がありましたけれども、県内で1万人を超える児童生徒が不登校になっているということについては、学校は本来、誰にとっても安心していただける場所であって、楽しく通える、そういった居場所であるということが、本来のあるべきところということからすればですね、非常に重たい数字だなと思っております。誰もが安心して通えて、楽しく学べる、そういった学校環境づくりというものを進めていく必要がありますので、安心安全な学校づくりをしっかりと進めていきたいというふうに思っております。

**N H K：** 5年前、10年前と比べると、かなり増えている状況だと思うんですが、今後も続くといえますか、簡単に減らすというのはやはり難しいというような御認識でしょうか。

**教育長：** 不登校の要因自体は非常に様々なものがありますので、何かをすれば、それで直ちに減るといった類いのものではないというふうに思います。それぞれの子どもにしっかり寄り添ってですね、対応していくということが必要だと思いますので、これまでも、スペシャルサポートルーム、いわゆるSSRですとか、SCHOOL“S”等で、実際に子供たちと対話してきた中で得られてきた知見というものもございますので、そういったところと照らし合わせながら、子供たちに何か不安があるようなことがですね、少しでも解消して楽しく通えるとかですね、何か悩みがあれば、それがしっかり早い段階で相談できて、大きくならないうちにですね、周りの力を借りて解消していくというような取組を、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいというふうに思っております。

**N H K：** ありがとうございます。

#### 《県立高等学校の再編整備について》

**読売新聞：** 読売新聞の荒川と申します。すみません、高校の再編の話に戻ってしまうんですが、確認です。現段階でコメントできないのは、自治体への丁寧な説明が終わっていないからだということだったんですけれども、その説明というのは、報道で明らかになったから始めたのか、それより前から行っていたのかでいうと、どちらですか。

**教育長：** いつからということとは申し上げられないんですけれども、並行して話をしている部分は、どれだけの具体の粒度かというのはありますけれども、(説明は行って) ございます。ただそれを、先ほどから出ておりますようなスケジュール感のある程度もっていくとなれば、より本格化していくような段階にあるというふうに捉えております。

**読売新聞：** 各自治体の市長さんとかが、「唐突だ」という反応もあった中で、もともと説明はしていたということですか。市長さんが把握されていなかっただけで、自治体への説明は行っていたということですか。

**教育長：** この段階で、我々が誰に対してどのように説明したかということをつまびらかにするつもりはありませんけれども、それぞれの担当も含めてですね、どのような形の考え方で進めていくのか、実施計画をどのような形で検討しているのかということの中で、具体の中身にどこまで触れているかということについては申し上げにくいんですけれど

も、話はさせていただいております。これから更に具体的にどのようにするのか、どうしていくつもりなのか、これからの未来の教育をどう考えるのかということについて、より突っ込んだ話をしていかなければいけないと思っております。

**読売新聞：** 説明をもととしていたかどうかという 1 点のみの質問なんですけれども。

**教育長：** しておりますということです。

**読売新聞：** していた、分かりました。

(以上)